

職員PT検討報告

【これまでの検討経過】

職員PTでは、区民会議と並行して条例案を考えるのではなく、区民会議で検討している内容を尊重し、その趣旨に基づく条例が実際に施行された場合、私たち行政の仕事のやり方はどのように変わるのか、また地域の中での区民の皆さんの活動はどう展開していくのかということについて、具体的なストーリーを想定しながら考えていくというワーキングを重ねてきました。

以下はその検討の経過です。

●「参加・協働」「コミュニティ」の図式化（10月）

「P（計画）D（実行）S（評価）サイクルにおける区民参加」「地域コミュニティとNPOとの連携」のあり方を図式化

●具体事例のプロットづくり（11月）

10月に作成した図式に沿って、区民ひろばや地域の安全対策等の具体事例を想定し、各自が桃太郎などの昔話仕立てで「お話し」を作成⇒区民が主人公だということを確認する

●具体事例のロードマップづくり（12月）

条例が制定されてもすぐに理想の形になるわけではないので、「区民が主人公の自治」をゴールとして、どのような流れでそのゴールを目指していくのか…これから地域で展開していこうとしている「地域区民ひろば」、「NPOとの協働（パートナーシップセンター）」、「地域運営学校」という3つのコミュニティ施策について、そこではどのようなセクター、どのような仕組みが必要となるかを洗い出し、ゴールへのロードマップを作成

●自治ストーリーの作成（1月）

12月に作成した3つの施策のロードマップをバラバラに考えるのではなく、ひとつの地域を仮定し、その3つがどう関連していくか、またそこでどのような問題が起こりうるかという仮想自治ストーリーを作成し、その時、自治基本条例がどのような効果を持つかを想定してみました。

【自治ストーリーから自治基本条例の効果を検証】

こうして作成した自治ストーリーは、ある意味では図式的なものとなっています。実際にはもっと様々な問題（反応）が生じることと思います。区民の皆さんが、このストーリーにさらに多くのことを書き加えていただき、そうした具体的なケースを想定し、それに対応する基本的な考えを自治基本条例が示しているかどうかを検証していくことで、自治基本条例を「使える条例」にしていこうことにつながるのではないかと考えます。

区民会議の皆さんが、条例の効果を考える判断材料のきっかけとして、この自治ストーリーを紹介します。

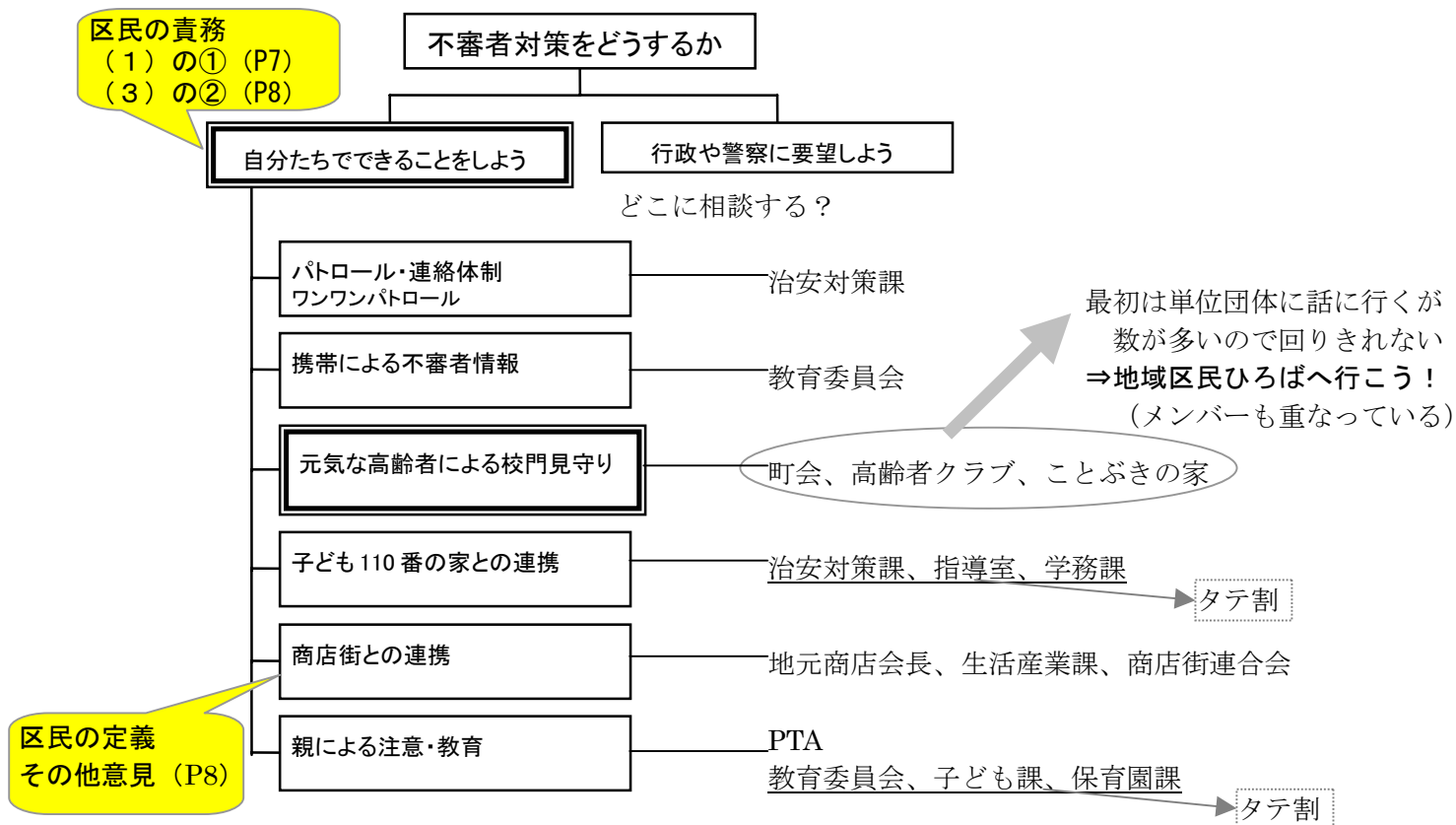
【自治ストーリーの背景】

2007年9月、新学期が始まった上巢鴨地域の中学校付近で不審者が出没し、生徒の安全確保が地域運営学校協議会の議題として持ち上がりました。この協議会は、この地域にある海山中学校の運営について地域の区民等が参加して協議する場です。構成メンバーは町会長・民生委員・育成委員・青少年委員・PTA・同窓会・地域NPO・地域の支援者という顔ぶれで、その年の4月に設置され、1学期が経過しました。今回の事案については、通学路の安全対策も学校運営の一環と考えられ、協議事項として取り上げられることになりました。

一方、同地域には大空・美空ふたつの小学校区があり、すでに前年に地域区民ひろば運営協議会が立ち上げられており、1年を経過する中で協議会の運営も軌道に乗ってきていました。特に、大空小学校区の地域区民ひろばは学校内展開で、全児童クラブの活動にも大空区民ひろば運営協議会が深く関わっており、区民ひろば運営協議会の下部組織である子ども部会では、子どもたちの安全対策についても既に話し合われていました。

【ストーリー展開】

① 地域運営学校協議会の話し合い



② 地域運営学校協議会と地域区民ひろば運営協議会との連携

元気な高齢者による校門見守りについて、ふたつの地域区民ひろば運営協議会に相談に行く
=> 地域区民ひろば運営協議会の反応

大空区民ひろば運営協議会

- ・ 子ども部会で安全対策が話し合われた経緯があったが、全体会の方は施設運営が中心で、課題も山積しており、なかなかそこまでは考えられていなかった
- ・ これを機会に全体の共通課題として認識された（中学校だけの問題じゃない）
- ・ この場で、「こうした取り組みの必要性は理解できるが、うちの子は私立小学校に通っているのだが、区立学校以外の子どもの安全対策も考えるべきでは？」との指摘もあった。
- ・ 「不審者とは違うが、街の安全は、例えば放置自転車や落書きを野放しにしていると、どんどん治安が悪化すると聞いた。例えば、放置自転車は視覚障害者の通行にも危険だ。例えば視覚障害者の方の意見なども聞くべきではないか」など様々な意見が出ました。

美空区民ひろば運営協議会

- ・ 「そこまで区民ひろばで検討する項目なのか？区民ひろば運営委員会は、基本的には施設の使い方について話し合う場ではないのか？」との疑問も出ました。
- ・ 実は海山中学校地域運営学校協議会長を務める町会長と美空区民ひろば運営協議会会長を務める町会長との意思の疎通が円滑でなかったため、区民ひろば運営協議会の会長は、話の持ってくるプロセスが違うと内心立腹している。
- ・ 「中学校で校門の見守りなんて必要なのか、危険な場所はもっと他にあるだろう」との意見も出た。

コミュニティ
Ⅱの5 (P10)

⇒地域区民ひろばとしてどう対応すべきか
意見はいろいろな方向に広がっていったが最終的には、

キーパーソンの発言

そうは言っても子どもの安全のことだからこの場でも考えよう！



せっかくだから、「地域運営学校から要請のあった『校門の見守り』だけではなくいろいろ考
えた方がいいということになり、

地域全体で考えていこう

区民の責務
(3)の② (P8)
コミュニティ
Ⅲの4の③ (P11)



海山中学校地域運営学校協議会と大空と美空の地域区民ひろば
運営協議会とが一緒に

「子どもの安全を考える地域協議会」を立ち上げる

コミュニティ
Ⅱの4 (P10)
Ⅲの3 (P11)

そんな区民ひろばと関係ない組織を
勝手に作っていいのかという声に
対抗するのはこの条文

コミュニティ
Ⅲの2の① (P11)

③ 「子どもの安全を考える地域協議会」と NPO との協働

子どもの安全を考える地域協議会は始動したがノウハウがない⇒とりあえず警察や防犯協会に相
談に行く

そのうち「安全を考える協議会」メンバーの一人が知り合いの NPO に相談
⇒相談された NPO はその分野が得意でなかった⇒

「パートナーシップセンターに行くといろいろなノウハウを持った人がいるよ」

参画・協働
Ⅳの1 (P16)

パートナーシップセンターを紹介

パートナーシップセンターに相談

貼り紙

○こんなことで困っています

得意分野が異なる様々な NPO

A 小さな子 幼児専門
B 中高生の 悩み専門
C
D

だけど NPO の事業費はどうするの？

- ・ 安全教育セミナー
参加費や本の売上げ
- ・ 安全教育事業
行政からの補助金
行政が NPO に事業委託

参画・協働
Ⅳの1,2 (P16)

コーディネーター (...誰が?)

様々な事業を実施していくうちに…

